



第二編

住民マイ・タイムライン作成編

第1章 総則

マイ・タイムライン作成に必要な基本的な考え方について

1 基本的な情報を知ろう

沼津市の状況

- 沼津市では、人口、住宅ともに約半数が浸水範囲内に位置しており、水害対策は重要な政策の一つです。
 - 令和3年施政方針に、常襲浸水地域の被害の軽減等が盛り込まれました。
- 市内の洪水予報河川及び水位周知河川である狩野川水系狩野川・黄瀬川、富士川水系高橋川・沼川及び新中川水系新中川（以下「対象5河川」という）の想定災害は以下のとおりです。
 - 浸水範囲内の居住人口約9.6万人（住民基本台帳 令和3年1月末：193,308人）
 - 家屋浸水は約4.2万棟（床上3.6万棟、床下0.6万棟）
（住宅・土地統計調査 平成30年：95,360）
- 地区別によると、避難が間に合わない、避難所に収容しきれない、建物2階のみの避難場所（地区全域が浸水域）の地区がみられます 以下のような対応が必要です。

■ 避難が間に合わない・例

避難先：大平小学校（3階以上）				
種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間	避難の可否
一般者	2,038m	約34分	40分（狩野川）	可
要配慮者		約68分		非

出典：地区別洪水避難カルテより（大平地区）



■ 避難所に入れない・例

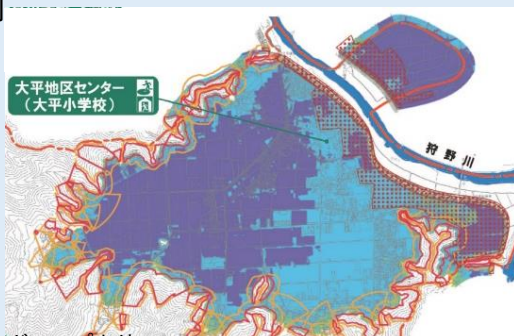
避難先：大平小学校（3階以上）			
自治会名	A：立ち退き避難人口	B：避難先収容可能人数	充足率
大平第一区～大平第十一区まで	3,651人	452人	12%

出典：地区別洪水避難カルテより（大平地区）



■ 地区全域が浸水域・例

浸水深 5.0m以上
浸水深 3.0～5.0m未滿
浸水深 1.0～3.0m未滿
浸水深 0.5～1.0m未滿
浸水深 0.3～0.5m未滿
浸水深 0.3m未滿



出典：狩野川・黄瀬川洪水ハザードマップより



予想される災害と地域

- 市内では、以下のような災害が予想されます。

災害	予想される災害と地域
風水害	市内の主要河川は、市の中央部を流れる狩野川で、昭和 33 年の狩野川台風以来、放水路の整備などの治水対策を進めています。しかし、近年、気候変動により、局地的な豪雨が発生しており、洪水による災害の発生リスクが高まっています。災害は予期されない事態によって起こるものであり、流域の開発の進展につれ新しい災害も予想されます。季節的には 6 月、7 月の梅雨前線活動の活発化により大雨や局地的豪雨に見舞われることがあります。また、8 月～10 月にかけては台風の接近又は上陸により、暴風雨による災害が発生することがあります。
狩野川流域 (一級河川)	流域の大半が脆弱な火山噴出物で覆われ、大雨などで崩壊しやすい地質構造となっており狩野川台風を契機に対策が進められました。狩野川放水路の整備や河道堀削・堤防の整備など河川改修により流下能力は大きく向上していますが、施設の能力を上回る洪水が発生した場合には、越水や浸食、内水等による洪水氾濫の恐れがあります。
沼川流域 (一級河川)	市北部を流れる多くの河川が流れ込むため、水位上昇時には内水氾濫による浸水被害が発生するおそれがあります。沼川周辺の低平地では、地形的要因による排水不良と流域の開発による流出増などにより、浸水被害が頻発しています。
高橋川流域 (一級河川)	高橋川流域は低平地で過去幾多の内水による浸水を繰り返してきました。そのため、河道改修や排水機場増設などを行い治水安全度の向上を図っていますが、水位上昇時には内水氾濫による浸水被害が発生するおそれがあります。
高潮・高波	駿河湾に面し長い海岸線をもっているため、台風や低気圧等による高潮・高波の影響を受けやすくなっています。台風等による高潮・高波、西風による高波が発生することがあるため、防潮堤のない地域は災害が予想されます。
土砂災害	市内では、急傾斜地崩壊危険箇所が 253 箇所、土石流危険渓流が 129 箇所、合計 382 箇所の土砂災害危険箇所があります。そのうち土砂災害（特別）警戒区域が 380 箇所（いずれも令和 2 年 12 月 28 日現在）指定されており、降雨時や地震時の被害が予想されます。

(沼津市地域防災計画より)

過去の主な水害

- 過去の主な水害は、以下のとおりです。

年月	沼津市内の主な水害
1974年7月7日(昭和49年) 台風8号(七夕豪雨)	大雨が平野部に集中し、全県下に被害がありました。当市では死者1人、全壊5戸、半壊8戸、床上浸水1,612戸、床下浸水7,161戸、田畑冠水1,523.3ha、道路決壊10箇所、堤防決壊5箇所、山崩134箇所の被害が出ました。
1959年8月13日(昭和34年) 台風7号	中部以東で被害大きく、当市では全壊45戸、半壊122戸、床上浸水538戸、床下浸水927戸の被害がありました。
1938年6月29日(昭和13年)	県中・東部・伊豆地方で豪雨がりました。6月28日～7月5日の雨量は787mmで沼津の最大日雨量は332mm(29日)に達しました。
1932年11月14日(昭和7年)	箱根山で14日18時最大瞬間風速55.3m/sを観測しました。湯ヶ島での雨量は227mmに達しました。沼津での被害は負傷者1人、全壊22戸、半壊100戸です。
1924年9月16日(大正13年)	県東部・伊豆半島で被害が生じました。石廊崎での最大風速50.4m/sで、雨量は伊豆中央部に集中しました。沼津署管内での被害は床上浸水576戸、床下浸水764戸、冠水田畑160ha、決壊道路11.3km、橋198m、堤防36mなどです。
1922年8月23日(大正11年)	特に中・東部で被害が大きかったです。沼津の日雨量は23日190mm、25日142mmで、26日までに総雨量334mmに達しました。沼津署管内での被害は、床上浸水216戸、床下浸水429戸、冠水田畑126ha、橋4箇所です。
1920年9月30日(大正9年)	伊豆地方、特に田方郡で被害が大きかったです。沼津での最大日雨量は153.5mmであった。沼津の被害は床上浸水767戸、床下浸水718戸、冠水田畑388haである。
1914年8月12日(大正3年)	12～13日暴風雨で雨量は安倍川流域・東部・伊豆地方で多く、沼津の日雨量12日に208mmを観測しました。また最大瞬間風速は沼津で24.4m/sでした。
1910年8月10日(明治43)	全県下特に中・西部で台風の被害をうけた。沼津で9日の雨量は243mmに達し、梨ノ木堤防が決壊して大洪水となりました。沼津での浸水家屋は752戸、対岸の楊原は610戸でした。
1680年9月28日(延宝8年)	【高潮】原・吉原、潰家溺死夥しかったとの記録があります。

(沼津市地域防災計画より)

2 大雨と水害への対策を知ろう

「想定最大規模の雨」で川が氾濫したら

- 想定最大規模の雨とは、考えられる最大規模の雨のことで、狩野川流域では以下の降雨条件を想定しています。
 - ・（大仁地点より上流の）48 時間総雨量 828mm
 - ・（徳倉地点より上流の）48 時間総雨量 746mm
 - ・（黒瀬地点より上流の）48 時間総雨量 721mm
 - ・（本宿地点より上流の）48 時間総雨量 852mm

- 洪水浸水想定区域図とは、想定最大規模の雨が降って、堤防が決壊した場合の、氾濫水が広がる範囲や浸水深、浸水継続時間等をシミュレーションにより想定した図です。「①洪水浸水想定区域」、「②浸水継続時間」、「③家屋倒壊等氾濫想定区域」の3種類があります。

①洪水浸水想定区域（浸水範囲及び浸水深）

浸水時に浸水が及ぶ範囲と、その時の浸水の深さを示しています。

②浸水継続時間

浸水深が 0.5m 以上になってから再び 0.5m 未満に水が引くまでの時間です。

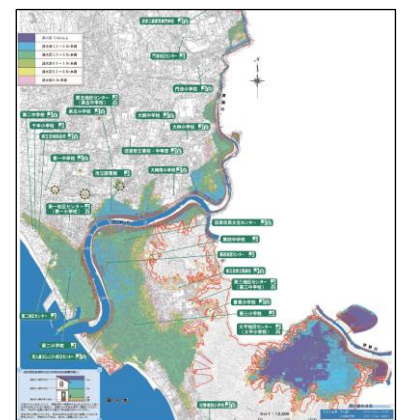
床上浸水が長時間に渡る場合、垂直避難（2 階へ避難）では孤立してしまう恐れがあるため、立ち退き避難が必要となります。

③家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）

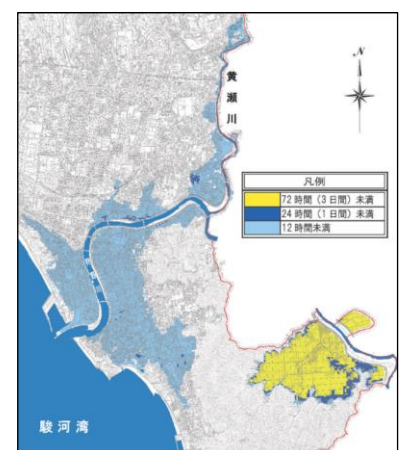
家屋倒壊等氾濫想定区域には、洪水氾濫と河岸浸食の2種類があります。

氾濫や河岸浸食によって家などの建物が倒壊・流失する恐れのある範囲を示します。

この区域では、立ち退き避難の判断が必要になります。



例) 洪水浸水想定区域



例) 浸水継続時間

洪水時に得られる情報と読み解き方

- 避難行動を判断するときには有効な情報として、〈台風〉、〈雨〉、〈川〉、〈土砂災害〉、〈避難〉に関する情報があります。最新の情報を集めて的確に判断しましょう。

	情報	気を付けるポイント
台風発生 ↓ 水位上昇 ↓ 緊急時	台風に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きさ ・ 強さ ・ 進路
	雨に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨量 ・ 降っている地域（川の上流） ・ 今後の見通し
	川に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近くの川の水位 ・ 上流の川の水位（今後の見通し） ・ 氾濫の発生
	土砂災害に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌雨量指数による危険度分布（キキクル）
	避難に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急） ・ 交通の状況

- テレビ、パソコン、スマートフォン、携帯電話など様々な手段で情報を収集することができます。

	情報	情報を知る主な手段
台風発生 ↓ 水位上昇 ↓ 緊急時	台風に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビの天気予報 ・ 気象庁のホームページ
	雨に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビの天気予報 ・ 気象庁のホームページ
	川に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビのデータ放送 ・ 河川事務所のホームページ、SNS
	土砂災害に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ・ラジオ、防災無線 ・ 気象庁のホームページ
	避難に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市のホームページ、SNS ・ 市の防災メール配信サービス ・ 県のホームページ、SNS ・ 公共交通機関のホームページ、SNS

- 河川の氾濫や土砂災害の恐れがあるときに避難の判断がしやすいよう、5段階の警戒レベルを用いた避難情報を発令しています。

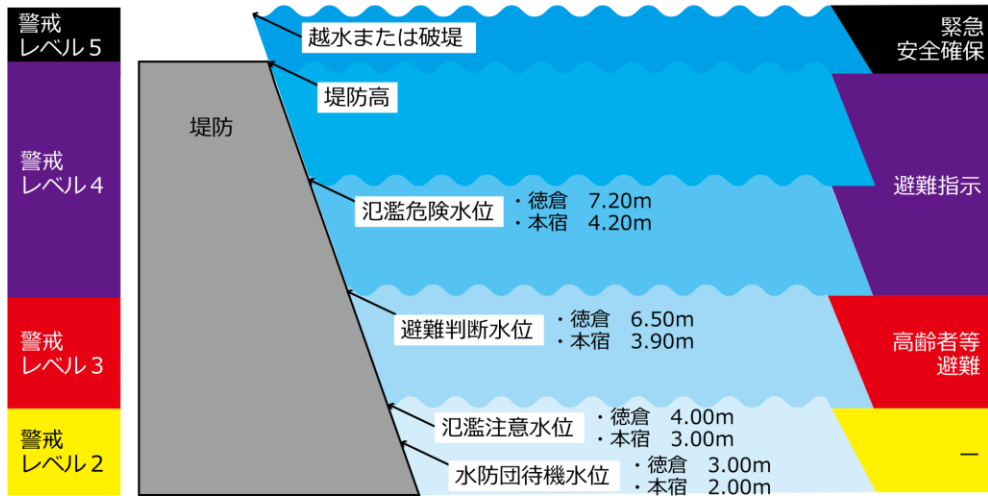
避難情報等	発令される状況	住民の皆さんがとるべき行動
【警戒レベル5】 緊急安全確保 (市町村長が発令)	災害発生または切迫（必ず発令される情報ではない）	命の危険 直ちに安全確保！ ・指定緊急避難場所等への立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。 ・ただし、災害発生・切迫の状況で、本行動を安全にとることができるとは限らず、また、本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。
【警戒レベル4】 避難指示 (市町村長が発令)	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ・危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。
【警戒レベル3】 高齢者等避難 (市町村長が発令)	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等は危険な場所から避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者的高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。
【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮 注意報 (気象庁が発表)	気象状況悪化	自らの避難方法の確認 ・ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認。
【警戒レベル1】 早期注意情報 (気象庁が発表)	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める ・防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害の心構えを高める。

※各種情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

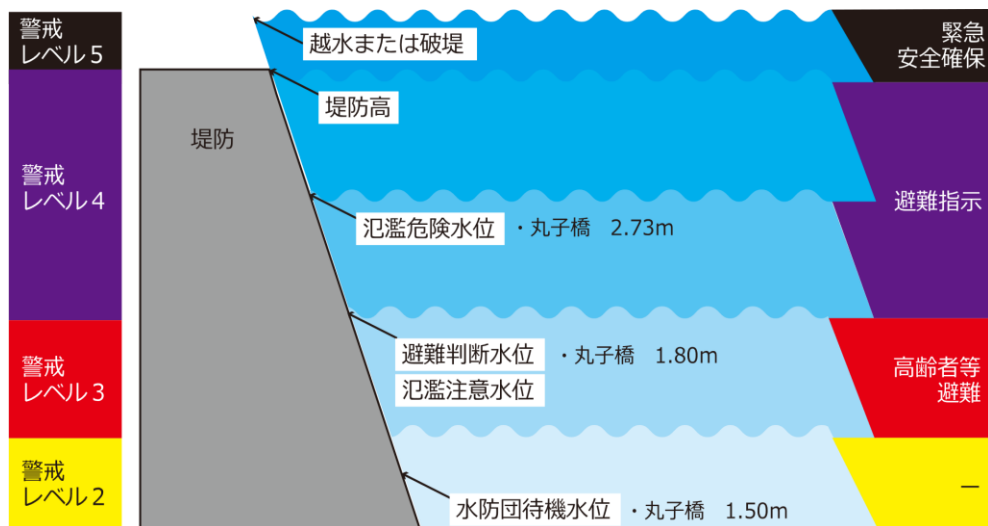
※避難の際は、避難所だけでなく、親せき宅や自宅の高いところなども検討してください。

- 避難情報発表のおおよその目安は以下のようになっています。

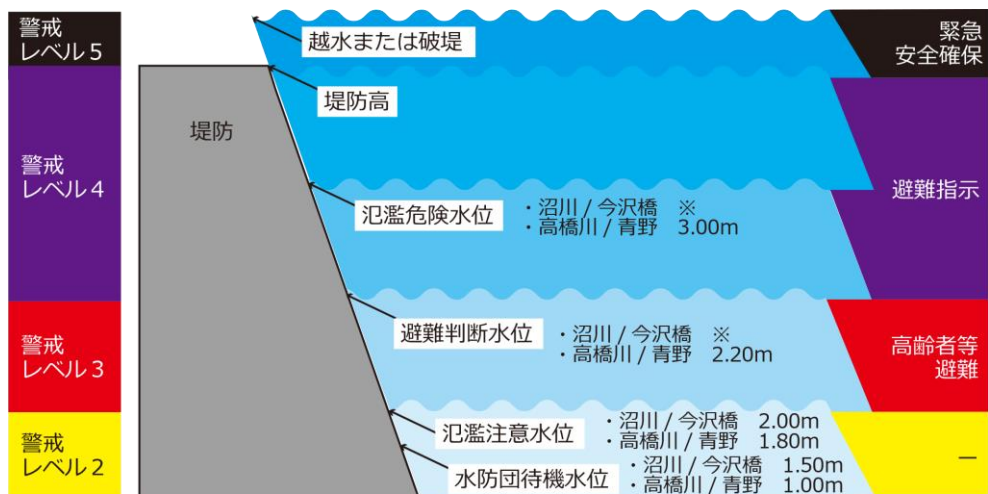
【狩野川・黄瀬川】



【新中川】



【沼川・高橋川】



・沼川/今沢橋 「氾濫危険水位」「避難判断水位」については設定されておりません

避難の方法

- 避難の方法には、いくつかの種類があります。どのような避難が必要になりそうか、考えましょう。

避難行動	避難先	居住者等が平時にあらかじめ確認・準備すべきことの例	リードタイム※1の確保の有無	当該行動をとる避難情報
緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ●安全とは限らない自宅・施設等 ●近隣の建物（適切な建物が近隣にあるとは限らない） ・上階へ移動 ・上層階に留まる ・崖から離れた部屋に移動 ・近隣に高く堅牢な建物があり、かつ自宅・施設等よりも相対的に安全だと自ら判断する場合に移動 	<ul style="list-style-type: none"> ●急激に災害が切迫し発生した場合に備え、自宅・施設等及び近隣でとりうる直ちに身の安全を確保するための行動等を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●リードタイムを確保できないと考えられる時にとらざるを得ない行動 	警戒 レベル5 緊急安全確保
～警戒レベル4までに必ず避難～				
立退き避難	<ul style="list-style-type: none"> ●安全な場所 ・指定緊急避難場所（小中学校・公民館、マンション、ビル等の民間施設、高台など） ・安全な自主避難先（親戚・知人宅、ホテル・旅館等）等 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難経路が安全かを確認 ●自主避難先が安全かを確認 ●避難先への持参品を確認 ●地区防災計画や個別避難計画等の作成・確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●リードタイムを確保可能な時にとるべき行動 	警戒 レベル3 高齢者等避難 警戒 レベル4 避難指示
屋内安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ●安全な自宅・施設等 ・安全な上階へ移動 ※自らが居る建物内に限らず、近隣に身の安全を確保可能なマンションやビル等の民間施設がある場合に、当該建物の上階へ移動（垂直避難）することも含む ・安全な上層階に留まる 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップ等で家屋倒壊等氾濫想定区域、浸水深、浸水継続時間等を確認し、自宅・施設等で身の安全を確保でき、かつ、浸水による支障※2を許容できるかを確認 ●市・地域と民間施設間で避難に関する協定を締結 ●孤立に備え備蓄等を準備 	<ul style="list-style-type: none"> ●リードタイムを確保可能な時に取り得る行動 	警戒 レベル3 高齢者等避難 警戒 レベル4 避難指示

※1 リードタイムとは、指定緊急避難場所等への立退き避難に要する時間のこと。

※2 支障の例：水、食糧、薬等の確保が困難になるおそれ、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれ

- 洪水ハザードマップをみると、地区ごとの指定緊急避難場所を確認できます。
- 近くに適切な避難場所がない場合は、隣接市町村の避難場所も確認しましょう。

- 避難の手段も考えましょう。雨が降っているときには、平常時とは異なる危険な状況が想定されます。

移動手段 参考速度	長所	短所
徒歩 成人：4km/h 高齢者：3km/h	<ul style="list-style-type: none"> ・車が入れない場所でも移動できる ・緊急時の対処が他の手段に比べて対応しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所まで遠い場合や雨の中を歩くのは、高齢者や子供が大変
自家用車 40 km/h	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や子供を連れて避難する場合に有効 ・徒歩に比べて、移動速度が速い ・雨にぬれずに避難ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に浸かり動けなくなる ・渋滞にはまる恐れがある ・避難場所には駐車ができない ・緊急車両の通行の妨げになる恐れがある
公共交通機関 電車：80km/h バス：40km/h	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に多くの人を輸送できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった運行場所・運行時間のため、各自の避難したいタイミングなどと折り合わない恐れがある ・避難場所に直接たどり着けない

風水害時の避難の危険性

【実験データ】

- ・浸水深が 50cm（大人の膝）程度 で、氾濫流速が約 2.5km/h 程度でも 避難は困難 となります。

【洪水氾濫時の移動困難事例】

- ・令和元年東日本台風による大雨では死亡が確認された方の 約 3 割が移動中の車内 で亡くなったとの報道がありました。
- ・浸水深が 30cm を越えると車の走行が困難となり、50cm を越えると車内に閉じ込められる おそれがあります。

【氾濫水は濁っている】

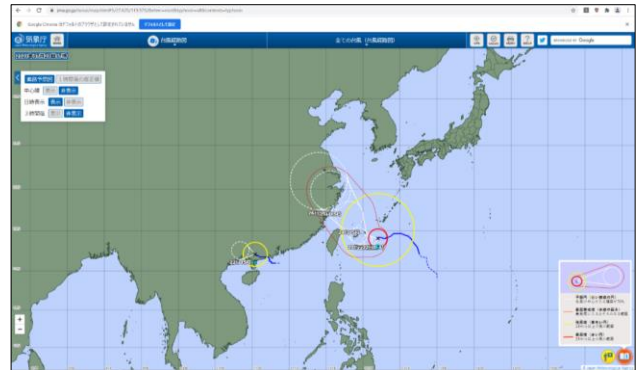
- ・氾濫水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが開いているマンホールの穴は、見えません。
- ・やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら 移動しましょう。



情報の入手の仕方

● 台風に関する情報

テレビの天気予報や、パソコン、スマートフォン・携帯電話で、気象庁のホームページにアクセスすれば、台風の位置や強さ、今後の台風の進路や暴風域等を確認できます。



気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jp/typh/>



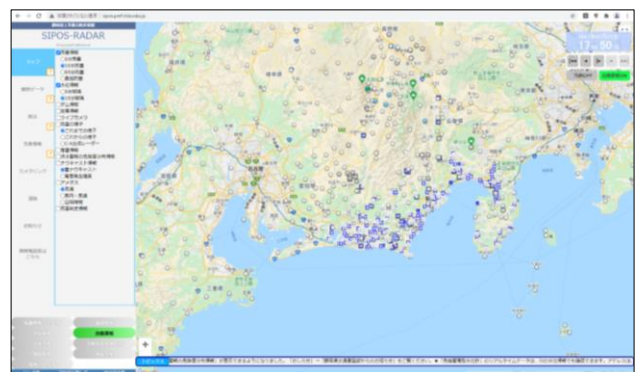
● 雨に関する情報

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、川の防災情報ホームページ、気象庁のホームページにアクセスするか、NHK 総合テレビのデータ放送を見ると、雨量観測所のリアルタイム情報、レーダ雨量（XRAIN）情報を見ることができます。

さらに、SIPOS-RADAR（サイポスレーダー）にアクセスすることで各雨量観測所の時間毎雨量や累計雨量を確認することができます。



↑川の防災情報ページ



↑サイポスレーダーページ

川の防災情報ホームページ	http://www.river.go.jp/	
気象庁ホームページ	http://www.jma.go.jp/	
SIPOS-RADAR (サイポスレーダー)	http://sipos.pref.shizuoka.jp/	

● 気象に関する情報

気象庁ホームページにアクセスすれば、警報・注意報の発表状況や、注意警戒すべき期間、ピーク時間、雨量の予想などを確認できます。

「大雨特別警報」は、台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想される場合などに発表します。





↑気象庁ページ

気象庁ホームページ	http://www.jma.go.jp/	
-----------	---	---

● 河川に関する情報


パソコン、スマートフォン・携帯電話で、川の防災情報ホームページや、SIPOS-RADAR（サイポスレーダー）にアクセスすると、水位観測所のリアルタイム情報、河川の洪水予報を確認できます。

NHK 総合テレビのデータ放送でも、水位観測所のリアルタイム情報を確認できます。

川の防災情報ホームページ	http://www.river.go.jp/	
SIPOS-RADAR (サイポスレーダー)	http://sipos.pref.shizuoka.jp/	

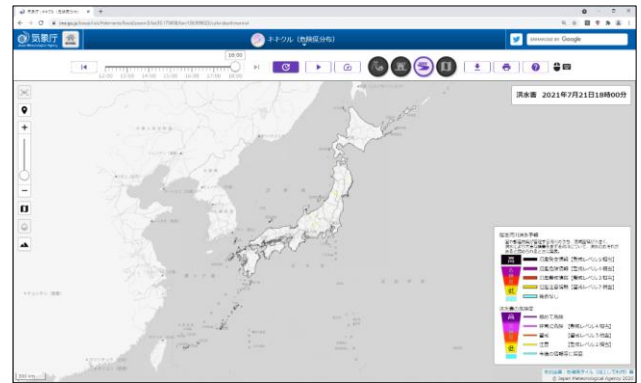
● 避難に関する情報

沼津市からの避難情報（避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急））は、危機管理情報メール、ツイッター沼津市緊急情報、同報無線等で発信されます。


危機管理情報メール	⇒こちらの QR コードから登録することができます	
ツイッター (沼津市緊急情報)	@kinkyu_numazu	

● 危険度分布に関する情報

気象庁は、大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」の提供を行っています。「危険度分布」は、雨による災害の危険度を5段階で色分けして地図上にリアルタイム表示するもので、活用することにより災害から自分自身や大切な人の命を守ることができる情報です。



↑気象庁（キキクル）ページ

<p>キキクル（危険度分布）</p>	<p>https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:food/zoom:5/lat:35.155846/lon:138.999023/colorddepth:normal</p>	
--------------------	--	---

3 マイ・タイムラインを知ろう

マイ・タイムラインの考え方

- マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりの水害時の行動計画です。防災行動の「何時」、「何を」、「誰が」を明確にするものです。
- マイ・タイムラインを検討することは、災害時だけでなく、平常時にも以下のような役割を持っています。

● 平常時の役割

① リスクを認識できる

- ・ 自分の家が浸水してしまう
- ・ 避難場所まで遠い など

② 逃げるタイミングがわかる

- ・ いつ逃げる？
- ・ 誰と逃げる？
- ・ 危険な場所をさけて逃げるには？

③ コミュニケーションの輪が広がる

- ・ 検討会での意見交換などで、知り合いになれる
- ・ ご近所とのつながりが強く、太くなる



● 災害時の役割

① 行動をチェック

- ・ 避難に必要なものを確認できる
- ・ 安全な避難経路を確認できる

② 判断をサポート

- ・ 落ち着いて冷静な行動がとれる



実践や訓練で検証し、継続的に見直すことでタイムラインが進化します。継続的にタイムラインを見直していくことにより、防災力が向上します。

マイ・タイムライン使用時の心得

- マイ・タイムラインを作成すると、自分と家族がとるべき防災行動が明確になります。が、次の点に注意しておく必要があります。

注意 1 : 台風の進み方、雨の降り方、川の水位の上がり方は風水害毎に異なります。マイ・タイムラインで想定したとおりに進行するわけではありません。

注意 2 : 氾濫した際の浸水深や浸水継続時間も洪水毎に異なります。マイ・タイムラインの検討に当たって想定したとおりに氾濫するわけではありません。

注意 3 : 気象警報、洪水予報、避難情報等は実際の気象や河川の状況に応じて発表・発令されるため、マイ・タイムライン上の時間と一致しないことがあります。

注意 4 : マイ・タイムライン上の時間は、時計のように進むわけではありません。例えば、タイムライン上で氾濫発生が3時間前となっても、水防活動等によって進行を遅らせることができ、結果として3時間経っても氾濫に至らない場合も想定されます。

- そのため、実際の風水害時においてマイ・タイムラインを使用する際には、次の心得を踏まえて行動してください。

心得 1 : マイ・タイムラインは、あくまでも行動の目安として認識する。

心得 2 : 風水害時はテレビやパソコンなどで、台風の進路、降雨の状況、河川の水位、気象警報や避難情報等をこまめに収集・確認する。

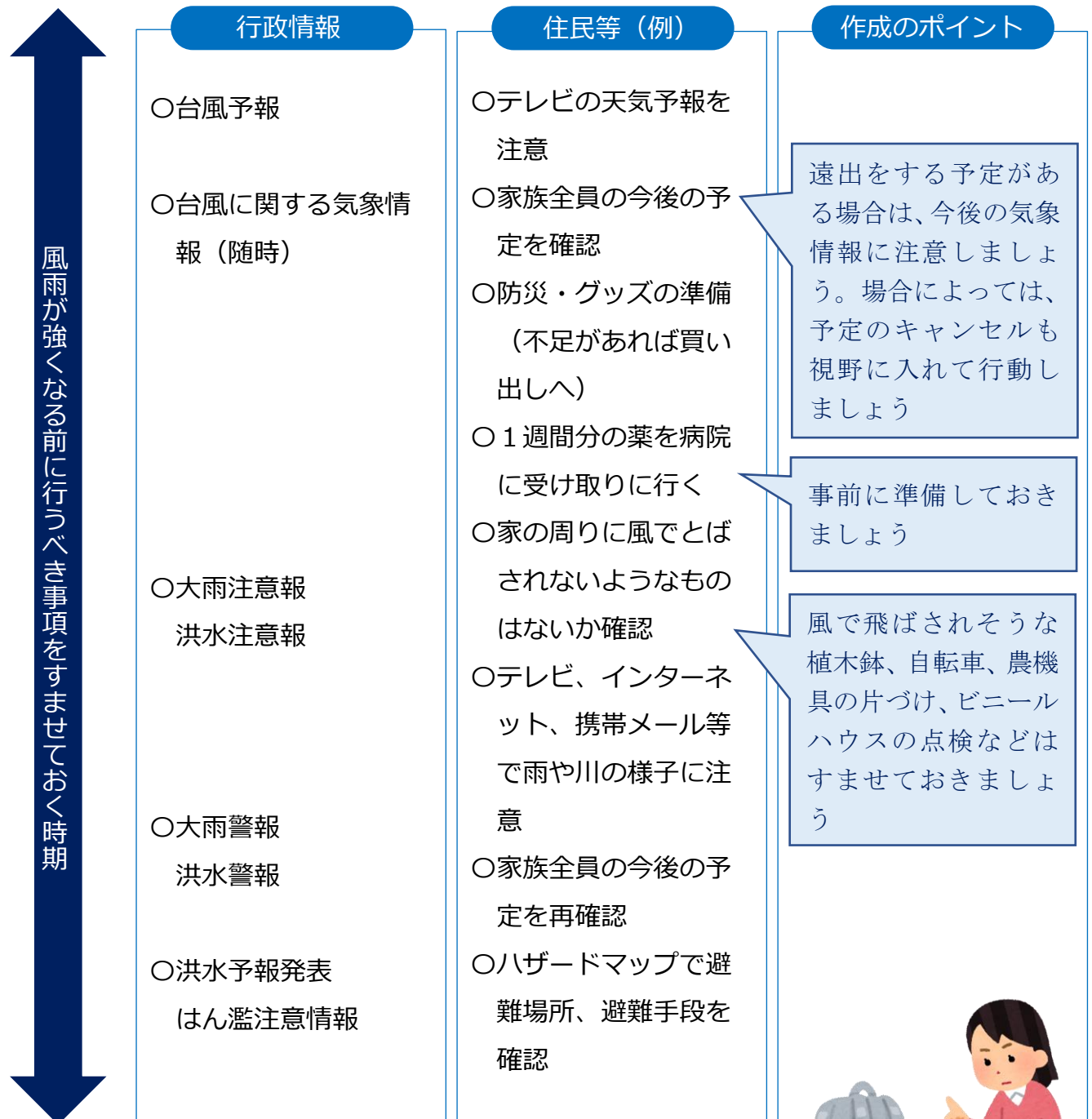
心得 3 : 収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう！



マイ・タイムラインの作成

- 以下のポイントに留意して、あなたのマイ・タイムラインを作成しましょう。



水位等の状況を把握しつつ、避難に要する時間に応じて避難行動を開始する時期

行政情報

- 要配慮者施設に洪水予報（はん濫注意情報）を伝達
- 避難所開設
- 洪水予報発表
はん濫警戒情報

- 警戒レベル3
【高齢者等避難】発令
- 暴風警報

住民等（例）

- 隣接市の親戚の家に家族みんなで避難することを電話
- 携帯電話の充電
- 川の水位をインターネットで確認
- 通行止め情報がないかインターネットで確認
- 隣接市のホテル、知人宅への避難の開始を判断
- （移動に時間のかかる人）市内の避難場所への避難開始を判断

- 携帯メール等で警戒レベル3【高齢者等避難】避難情報の受信
- 隣接市のホテル、知人宅への避難を完了
- 市内の避難場所への避難を判断

作成のポイント

移動中に情報を収集できるように、携帯電話等の充電をしておきましょう。

避難を開始する前に、交通情報や渋滞情報、地域の浸水情報などを収集しましょう。

避難する場所が遠い場合は、早めに避難行動を開始することも考えましょう。

移動中も常に市からの情報を収集しましょう。防災行政無線やメールなどでも情報は共有されています。





行政情報	住民等（例）	作成のポイント
○洪水予報発表 氾濫危険情報	○川の水位をインター ネットで確認	
○警戒レベル4 【避難指示】発令	○携帯メールで警戒レ ベル4【避難指示】 情報を受信	
○大雨特別警報	○市内の高台への避難 を完了 ○市内の避難場所への 避難を完了	避難が完了しても、情 報は収集しておきま しょう
○警戒レベル5【緊急 安全確保】発令	○携帯メールで警戒レ ベル5【緊急安全確 保】情報を受信	必要なものを確認し ましょう また、最初に戻って作 成したマイ・タイムラ インを確認しましょ う
○緊急速報メール 河川氾濫の恐れ	○自宅内の浸水が想定 されない場所での身 の安全を確保	

